

会 議 記 録 書

件 名	令和元年度 第5回さむかわ次世代経営者研究会
日 時	令和元年8月1日(木) 17:30～ 19:40
場 所	寒川町役場 本庁舎2階 災害対策本部室
出席者	別紙出席者名簿のとおり
議事録	<p>1. 開会</p> <p>2. 寒川高校生の職場インタビューの報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した2社から感想や質問事項等について説明 ・学生を外に出すことに抵抗があるため。会社へインタビューに行く形から、企業に来てもらう形式に変更した。 ・今後、寒川高校への就職に関するアンケートを実施する聞いてほしい項目があれば意見をいただきたい。 ※もしあればお盆明けまでに産業振興課へメール ・集計したものは会員の皆さんにお渡しする。 ・ハロワークでの求人について、求人票の書き方次第で、求職者からのアクセス数は変わる。(例：給料が安いと有給取得率80%) <p>ムラタ 村田(洋)</p> <p>【主な質問事項】 働き方について、会社の運営、製造品、給与</p> <p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務形態に関する質問は無かった。 ・学生がイメージしている「ものづくり」の現場とは違ったようだった <p>相生電子 矢島</p> <p>【主な質問事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな資格が必要か、その資格は働いたら取得できるのか。 ・どんな能力が必要か→コミュニケーション応力 ・大手と中小企業それぞれのメリットとデメリット →中小は異動がない、やりたいことができる。大手は安定。 ・人と話すのが苦手→得意分野を見出してくれる会社であれば、働き甲斐はあると思う。 <p>【感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造業には興味を持って、バイトを募集している企業がないので、ものづくりを経験するチャンスがないのではないかと。 ・人を大切にする会社は増えてきている。 ・製造業に興味を持っている人は少ない。何をやっているかわからない人が多いのだと思われる。 <p>インターンシップについて</p> <p>相生電子→キャンセルになった ムラタ→3日間。安全に配慮を最優先。本人も商品になると嬉しいと思うので、製造工程を経験してもらおう。</p> <p>※高卒の学生は先生の影響を強く受けるので、まず先生方に企業や仕事を知ってもらうための企業訪問等も考えていきたい。</p> <p>3. スキルマップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自作成してみて、感じたこと疑問点等について話し合った。 ・再来月までに、スキルマップをどう活用しているか。進捗状況を報告。 ・主な意見は以下のとおり。

(岡本)

- ・項目は少なくとも多くてもダメ。
- ・作成したがどう活かしていくのかまだ分からない。活用方法を検討する。
- ・技能不足等の判断材料として。
- ・今後従業員個人に作成してもらい、経営者側とのギャップを見ていきたい。
- ・経営者側の判断材料になる。

(大森)

- ・社員各自で作成してもらった。個人の性格が出る。
- ・前の会社では、壁に張り出してあった。
- ・活用方法が分からない。
- ・堀川さんが作った目的は？
→毎月給料を渡すときスキルマップを使って面談している。(堀川)

(堀川)

- ・本人がつけて、自分が確認、その後ヒアリングを行った。謙虚な社員が多かった。

(矢島)

- ・作業が必要な工程をメインにスキルマップをつけている。
- ・本人とのギャップはある。以前開示した際にモチベーションが下がったので、以後クローズしている。
- ・マネージャーがつけて、教育計画に反映している。
- ・マネージャーが変わると一新する。
- ・半年ごとに更新している。
- ・評価の基準、根拠を決めないといけない。
- ・お客様への説明資料としても利用できる。(資格を持たない従業員が作業する場合でも、資格ある人が教えています 等)
- ・社長がマネージャーに向けて「管理者」という視点で評価をつけている。
- ・実施していることは、社長と矢島さんしか知らない。
- ・給料の査定に使っている。

(高島)

- ・昔は大企業では職能給があった。
- ・一人ひとりが自分で考えて成長していくための文化を作っていくツール
- ・多能工化するために、ほめてもらうレベルを確認するために使う。
- ・情報はオープンにして、チームで情報が共有できた方がいい。
- ・達成した人には、褒める仕組みは作る必要がある。
- ・求める人材像を持つことが必要。マップを描いてストーリーを作る
- ・項目は多すぎないように注意。※後々増えてくるとメンテナンスが大変
- ・項目はざっくりでよいが、面談はきめ細かく行う。
- ・会員の皆さんには、作成しただけで終わらず、今後も続けてほしい。

(若槻)

- ・謙虚なのか意欲がないのか。逆に、高い評価をつけることを意欲とするのか。判断は難しい。
- ・そのギャップを埋めるために、両者が作成してヒアリングする方法がおすすめ。
- ・上司の基準が甘い辛いという問題もある。

- ・賃金に結び付けるには、倫理観、スキル、年齢、やる気等を考慮することが必要。

4. テクニカルショーヨコハマへの出展について

(矢島)

- ・単独で出展を考えている。
- ・最終商品（美顔器、充電器）を展示して、お客さんの反応を見る。
- ・営業担当は、自分たちの技術、自分たちにしかできないことを動画でプレゼンする。
- ・作業の紹介をする場合でも、トップレベルの作業を紹介している企業はわかる人を見るとすごさが分かる。

次世代としての出展について

→ 出展する。（ブース数については8月中に決定）

(鉄則)

自社のプラスになる工夫をする。人を集める工夫をすること。

【主な意見】

- ・各社が儲からなくては意味がない。新しい商品、サービスを出さなくてはいけない。時間は取られる。他社の分も説明できるような説明マニュアルを作る必要性。（高島）
- ・実践が学べるチャンス。（木村）
- ・出ると決めて、何を出すのかという考えるきっかけになる。（堀川）
- ・人の足を止めるには難しい。動きがあると違う。（矢島）
- ・職人が多いので展示は難しいのはわかる。
- ・菊池さんのところであれば、材料を見せて、こんな固いものを精密に削っていることを紹介。動画もいい。
- ・粉振装置なら研究会で作れるのでは？寒川町内だけで作ってます！というアピール（ムラタ）
→どこにでもあるものでは人を呼べない。関心を持たせる（高島）
- ・攻めの姿勢でお客様のニーズを探しに行くのには、この金額で出られるのはいい。（矢島）
- ・出したことよりも、出すまでの考えたり話し合ったりすることが良かった。（矢島）

5. その他

1. 町から情報提供

- ・県持続化補助金の説明（大和電子、ムラタは出す予定）
- ・事業継続力強化計画について説明
- ・次世代に参加して（アンケート）に目を通して、次回以降について考える。
- ・9/14 MOT 研鑽会 羽生田氏
テーマ：SDGs、society5.0
案内を出すので興味があれば参加してください。

2. 次回研究会について

日時：2019年9月13日（金） 16：30～18：30

場所：役場会議室

内容：オープンイノベーションについて

講師：経済産業省 関東経済産業局

地域経済部 地域振興課 係長 中村 文明

※次世代経営者勉強会のメンバーも参加して、合同開催とする。

3. 次々回研究会について

日時：2019年10月7日（月） 17：30 ～

場所：災害対策本部室

内容：テクニカルショーについて

日時：2019年10月21日（火） : ～

場所：未定

内容：下町サミット（あすめし会との交流）※調べて連絡

※参加は有志

日時：2019年11月27日（水）10：00～17：00

場所：ビックサイト

内容：新価値創造展・

以上（終了時間 19：40）

